

平成25年度学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
1 教育課程の工夫・改善を継続的にいながら、スペシャリストの養成を目的とする、単位制専門学科である本校の特色を活かした専門性の高い教育内容を提供する。	<p>① 新学習指導要領に基づき、本校の生徒に最適化した教育課程を編成するために、継続的に見直しを行う。大学・研究機関との連携及び特別講師の招聘などをさらに推進する。</p> <p>② 生徒の主体性をさらに伸ばさせ、本校の教育方針であるTOP教育(Thinking Organization Presentation「考えをめぐらせ、知識を組み立て、それをきちんと伝えることのできる能力を育てる教育」)の推進に向け、各学科の指導や行事における課題を明らかにし、改善するためのPDCAサイクルを確立する。</p> <p>③ 海外姉妹校交流や研修旅行などの内容をさらに深化させるとともに、国際交流の取組を進展させる。</p>	<p>① ・生徒のニーズに応えた、新教育課程における専門科目の設置がされたか。 ・大学・研究機関等外部の教育力と連携するとともに、それらを効果的に活用できたか。</p> <p>② 思考力・判断力・表現力の育成を図るための取り組みを推進できたか。また、改善するためにサイクルを確立することができたか。</p> <p>③ これまでの取り組みの成果を基にさらに発展的な取り組みを行うとともに、新たな展望を見据えることができたか。</p>	<p>① ・生徒のニーズ、進路との関係を考慮し教育課程を見直した。 ・外部講師を招聘し、専門性の高い授業ができた。 ・大学との連携による授業や講演会、大学訪問体験授業等を実施した。 ・2年次課題研究の展開について大学との連携がとれた。</p> <p>② ・各学科の発表会などを通じ、生徒間で主体的に話し合う場を設けたり、グループ活動による練習形態、プレゼンテーションの機会を増やしたりして取り組み、TOP教育を推進している。</p> <p>・実技発表会などの機会を捉え、リーダーを育てる教育を積極的に行った。</p> <p>③ ・海外姉妹校訪問においても、また姉妹校訪問団の本校への受け入れに関しても本校の今までの取り組みをさらに進化させ、地域貢献に結びつけるなど、深い交流を行い異文化理解教育を推進できた。</p>	<p>①新教育課程の完成年度に向け、必要な見直しを継続的に行う。 ・外部講師の招聘や外部連携をイベントに終わらせず、普段の授業に生かせるよう、振り返りを強化する。 ・理科2年次課題研究を通して、TOP教育の実践を図る。</p> <p>②各学科の発表会に結実させる各種の指導や計画を検証し、一層内容の深まりを伴う発表会に結実させるとともに、他学科の発表会を見る機会を作るなど、視野を広げさせる。</p> <p>③各学科の姉妹校交流や研修旅行の活動内容を生徒のアンケートなどにに基づき検討し、日程やプログラム内容を必要に応じて見直しを行い、より質の高い国際理解教育を実践する。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科発表会に向かって、研究や練習を重ねることで、子供たちは自己実現の喜びを感じ、将来への夢や目標をはっきりと抱くようになった。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育方針であるTOP教育は、新学習指導要領で重視している学力の3要素及び言語活動の充実としっかりと対応している。この教育の成果は、学科発表会や学校行事等で見事に発揮されているとともに、進路状況にも反映されてきている。 ・30周年記念式典、卒業式などは素晴らしく感動的なものだった。 ・各専門学科の授業以外での交流を盛んにし、弾力的なカリキュラムの運用が必要である。 ・提供される各専門学科のプログラムがそれぞれに特色のある教育内容と教育方法によって展開されている。 	<p>(学校評価)</p> <p>①専門性の高い教育課程の編成のため、外部機関との連携に努め、高度な学習環境を生徒に提供することができた。</p> <p>②各学科の発表会では、その事前準備から事後に至るまで、生徒の主体的な活動が見られ、TOP教育の推進を図ることが十分にできた。</p> <p>③今までの取り組みをさらに進化させ、深い交流を行い異文化理解教育を推進できたが、韓国の高校との姉妹校交流を実施できなかった。</p> <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他学科の生徒と交流する機会もできるだけ多く設定し、個性や価値観の異なる相手も尊重、尊敬し、自己も客観的に分析できる視野の広い、寛大な人間の育成を目指す。 ・TOP教育の実現に向け、幅広い視野を持つスペシャリストの育成に向け、教育課程の継続的な見直しを行う。 ・外部機関との連携においては、本校の教育目標を補完するものと位置づけ、有意義な連携方法を開拓する。 ・海外姉妹校交流の相手校については生徒の関心・意欲を高められるような新たな連携を模索する。

<p>2</p> <p>生徒の状況を的確に把握し、個に応じた進路実現を支援するとともに、教育相談体制の充実を図る。</p>	<p>① 入学時から積み重ねた実力テスト及び各種模擬試験や校内の成績データの分析方法の研究を進め、より適切な進路指導が行えるよう、教員研修を強化する。</p> <p>② 担任による個別面談や、教育相談コーディネーター、各学科に配属した教育相談担当者による組織的な支援体制を確立する。</p>	<p>① データ分析を、生徒の進路選択に合わせた適切な進路指導に結びつけることができたか。</p> <p>② 教育相談が効果的に機能したか。生徒の情報を正確に把握し、ケース会議が機能的に運営できたか。</p>	<p>① データ分析を進めながら、生徒のよりの確かな進路選択を図るための教員研修会を実施し、タイムリーな進路指導につなげることができた。</p> <p>② 生徒の状況に応じて、適切にケース会議を開催できた。特に課題を抱える生徒に対しては、担任、学科担当、養護教諭、教育相談担当が密に連絡を取り合い、組織的に課題の解決に取り組んだ。</p>	<p>① 各教員の進路指導のスキルを上げるために、教員研修を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各年次、学科の進路指導の成果と課題の次年度への引き継ぎ体制を強化する。 <p>② 必要に応じ、外部とも連携しながらケース会議を適切な時期に開催し、情報を共有するとともに、各生徒にとって最善の方策を探る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の状況を的確に把握し、スクールカウンセラーとも連携をとり、より充実した教育相談体制の構築を図る。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの学科の専門科目以外でも、受験に必要な科目は、生徒が苦手意識を持っていることもあるので、指導をさらに徹底してほしい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路結果がうまくいっているのは喜ばしい。在学中に学科の専門科目の学習に取り組む中で、学習全般への意欲が高まり結果的に進学実績も大変すばらしいものになっている。 学校の持つ雰囲気プラスに機能するようになってきた。各専門学科の活躍がこのことを裏付けている。 	<p>(学校評価)</p> <p>① データ分析を進めながら、生徒のよりの確かな進路選択を図るための教員研修会を実施し、タイムリーな進路指導ができた。</p> <p>② 生徒の状況に応じて、適切にケース会議を開催し、情報共有を進め、継続的な支援体制が確立できた。</p> <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 蓄積したデータや進路指導のノウハウを職員全体が共有し、職員がチームとなって進路指導を行うシステムを構築する。また、進路指導方針の年次間の引き継ぎも、より一層確実にしていく。 生徒との面談を行いやすいよう、行事予定等を工夫する。また、ケース会議の対象範囲と情報の共有化の検証と一層の改善を行う。
<p>3</p> <p>蓄積されたデータを有効に活用しながら、本校の生徒に向けた授業の最適化をめざし、授業研究に努める。また、様々な学習機会の提供に努める。</p>	<p>① 授業の予習復習や家庭学習の指導をはじめ補習・講習等可能な限りの支援を行い、学校と家庭での学習で、第一希望に進学できるような体制を整える。</p> <p>② 生徒の状況を的確に把握した上で、90分授業の活用、言語活動の充実などをテーマとした授業研究を行い、本校の生徒に向けた授業の最適化を図る。教材の共有化を進め、各教科でより効果的な授業実践を探求する。</p>	<p>① 放課後の補習、長期休業中の補習・補習・講習を実施し、生徒の参加を促進できたか。また、家庭学習の充実に向けた課題等の提供ができたか。</p> <p>② 組織的な授業改善の取り組みがなされたか。また、授業実践に向けた教材の工夫と共有が行われたか。</p>	<p>① 機会ある毎に、進路希望や到達度に応じた補習・講習を実施し、生徒の参加を促進し、基礎学力の向上や進路実現に向けて支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 普段の授業の中で、家庭学習の充実に向けた課題等の対策を行っているが、まだ十分とはいえない。 <p>② 生徒による授業評価の結果を踏まえ各教科で課題を特定し、解決に向けた手立てを検討した。自主作成教材や発表形式、グループ学習、ICTの活用など授業方法の改善に努めた。また、授業研究も進みつつあるが、統一したテーマに基づく授業研究やPDCAの確立にまでは至っていない。</p>	<p>① 生徒の進路希望の状況、学習の到達度を把握し、必要な時期に、生徒のニーズに応じた教科バランスのとれた講座の設定をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科担当者の情報交換を進め、教科としての課題の出し方、提出方法を統一する。 <p>② 本校の生徒に向けた授業の最適化をはかる。特に言語活動の充実、特に座学教科における90分授業の活用など、統一したテーマを共有して、より良い授業を目指して授業の最適化を図る。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期休業中に学校で補習を組んでいただけるのはありがたい。予備校に行かない生徒もいるので、より充実してほしい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業公開を活発に行い、教員同士がお互いの授業の方法や内容について気軽に話し合える風土を作って欲しい。 生徒による授業評価の結果が良いように思う。挨拶ができており、教育の成果が出ている。 先生方が一生懸命やっている。チームワークが取れているのではないかと思っている。先生方の纏まりが外から見て感じることができる。 	<p>(学校評価)</p> <p>① 機会ある毎に補習・補講・講習を実施し、生徒の参加を促進し、基礎学力の充実と進路実現に取り組んだ。</p> <p>② 自主作成教材や発表形式による授業の工夫などに取り組み、本校にふさわしい授業の研究・開発をしている。</p> <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒のニーズに応じて学習機会の拡大を図る。教科バランスのとれた講座の設定をする。 各個人の努力だけでなく、90分授業の活用や、言語活動の充実など、よい取組を共有し、テーマを設定した授業研究を推進する。

<p>4 それぞれの専門課程にふさわしいキャリア教育を実践するとともに、個の確立と社会性の育成を主眼に生活全般を指導し、心身の健全な育成を目指す。</p>	<p>① 各専門学科ごとの「総合学習」プログラムを計画に沿って実行し、さらに次年度の改善と発展につなげる。</p> <p>② それぞれの学科の特性に対応して改訂された「キャリア教育実践プログラム」を実行しながら、勤労観・職業観を自ら形成できるよう、生徒を支援する。</p> <p>③ あいさつの励行、通学時のマナー等基本的な生活習慣が、校内だけでなく広く生活一般において確立されるよう意識啓発を図る。</p> <p>④ 学校行事、学科行事、部活動、生徒活動等幅広い教育活動を展開し、生徒の自主性、責任感、社会性、倫理観を育成する。</p> <p>⑤ 生徒が主体的に校内美化、分別、節電の呼びかけを行うことで、生徒の環境への意識を高める。</p>	<p>① 各学科ごとに「総合的な学習の時間」を計画通り実行するとともに、改善につなげることができたか。</p> <p>② それぞれの学科の特性に対応した「キャリア教育実践プログラム」実践し、進路サポートを実現できたか。</p> <p>③ 基本的な生活習慣の確立とともに、マナーアップに全校で取り組めたか。</p> <p>④ ・生徒会活動、学校行事、部活動、LHRが有機的に融合し、幅広い教育活動を計画的に実施することができたか。</p> <p>・行事や部活動等で生徒が主体的に取り組む、成果や実績をあげられたか。</p> <p>⑤ 生徒の環境意識を高め、自主的に校内美化、分別、節電等の行動がとれるようになったか。</p>	<p>①各学科に応じた「総合的な学習の時間」が計画通り実施運営され、自ら考え表現する力を伸長させるための指導が実践された。</p> <p>②学科の特性に応じ、かつ「総合的な学習の時間」とも連動した「キャリア教育実践プログラム」を展開した。</p> <p>③集会やHR、教室掲示物等を活用し、基本的な生活習慣を確立させる取り組みを進めるとともに、交通安全指導を行うなどマナーアップに取り組んだ。服装・頭髪指導等、年次担当者内での意思の疎通を図り、統一した指導ができるよう心がけた。</p> <p>④・部活動、文化祭等の学校行事やARTLiVeなど有志の発表も盛んであり、幅広い活動が実践されている。</p> <p>・運動部(14部)文化部(15部)があり活動状況はどの部活動も良好である。活動実績からみても運動部、文化部併せて10部が全国大会、関東大会に出場を果たし、かながわ部活ドリーム大賞グランプリを受賞した。</p> <p>⑤清掃美化委員会を中心として、自発的に校内美化、教室の整備に取り組む姿勢が見られた。冷暖房委員会を中心として、教室の照明・エアコンをこまめに切ることによる節電に取り組めた。</p>	<p>①②「総合的な学習の時間」、学科行事と連動した「キャリア教育実践プログラム」の改善を進め、より良い内容に結実させる。</p> <p>③自転車の安全指導や乗車マナーの向上にはより一層の取り組みが必要である。</p> <p>④・行事の中で、体育祭には様々に改善の余地がある。生徒の自主性を育て、高い達成感・充実感を得られるように、年次、SIグループが緊密に連携して、情報の分析と取り組みの工夫を継続して行う。</p> <p>・地域貢献活動等を通じて、生徒が他者を尊重し思いやる心、大切にすることをはぐくむ活動を推進する。</p> <p>⑤節電については、使用しない教室の消灯、冷暖房の効率化をより徹底させ、節約の推進を継続する。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動に打ち込んでいる生徒が多い。これからも、支援をしてほしい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート結果を見ると理数科では近所だから入学したという消極的な理由が15%もある。理数科に入ると進学に有利といったアピールをもっとやってほしい。 生徒の事情を理解し、熱心に教育活動に取り組んでいる。また、生徒は、勉強以外の部分でも礼節をよくわきまえた高校生らしい活気に溢れた生徒であり評価している。 部活動のグランプリ受賞、野球部の県大会ベスト8、30周年記念の取り組みなど素晴らしい活躍が目立っていた。 学校の校風がスクール・コミュニティのメンバーにプラスに機能してきている。 	<p>(学校評価)</p> <p>① 各学科に応じた「総合的な学習の時間」が計画通り実施運営され、実効性のある態勢を整えることができた。</p> <p>② 学科の特性に応じた、かつ「総合的な学習の時間」とも連動した「キャリア教育実践プログラム」を展開できた。</p> <p>③ ・来校者に対するあいさつの励行が十分行われており高い評価を得ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 集会やHR、教室掲示物等を活用し、基本的な生活習慣を確立させる取り組みを進めるとともに、交通安全指導を行うなどマナーアップに努めた。 30周年記念事業の一環として三校校歌の指導など、本校への帰属意識を高めることができた。この取組は継続していきたい。 <p>④ 地域清掃活動だけではなく、近隣の支援学校、小学校と協同で福祉コンサートを実施し交流を深めることができた。</p> <p>⑤ 運動部、文化部併せて10部が全国大会、関東大会に出場を果たし、かながわ部活ドリーム大賞を受賞できた。</p> <p>⑥ 清掃については、自発的に校内美化、教室内の整備に取り組む姿勢が見られ、教室の照明・エアコンをこまめに切ることによる節電にも取り組むことができた。</p> <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 節電については、使用しない教室の消灯、冷暖房の効率化をより徹底させ、節約を推進する。 通学時、特に自転車のマナー・安全については、保護者と連携し指導を続けていく必要がある。 体育祭を始め、学校行事において、生徒の自主的な運営が進むよう、開催方式を検討する。
---	--	---	--	---	--	---

<p>5</p> <p>地域との連携を深め、開かれた学校づくりを行うとともに、専門学科で学んだ成果を地域に還元することの重要性を、生徒に意識啓発する。</p>	<p>①部活動やコンサート活動とおして、地域住民や異校種との連携を深め、開かれた学校づくりをすすめる。</p> <p>②外部への広報はもちろんのこと、在校生・保護者にとっても有意義な情報を発信する HP を目指す。</p> <p>③専門学科で学んだ成果を地域に還元する意識を啓発する。回数にこだわらず、最も適切な時期に授業公開や体験授業を行う。</p>	<p>① 地域との連携により開かれた学校づくりを展開できたか。</p> <p>② HP の見やすさや更新状況を含め、広報活動や情報伝達が効果的に行われたか。</p> <p>③ ・地域連携の取り組みに生徒が主体的に参加していたか。参加状況はどうか。専門学科で学んだ成果を地域に還元できたか。 ・公開授業や体験授業の時期や内容が適切だったか。</p>	<p>①「弥栄トリニティ」で弥栄小中学校との交流を進めるとともに、福祉コンサート、公民館などを通じた地域との連携を行っている。</p> <p>②HP 記事の更新方法が各職員に徹底され、本校の教育活動を幅広く広報することができた。</p> <p>③・各学科とも専門性を活かし、演奏会や実験教室、絵画指導、スポーツ指導、語学指導、福祉コンサート、挨拶運動などを地域の方々や小中学生に対して行うことができた。 ・中学生対象の公開授業や体験授業の時期を変更し、よりニーズに合ったものにした。</p>	<p>①小中高連携の意義を再確認し、弥栄トリニティを持続可能な取り組みとして確立する。</p> <p>②ホームページをさらに充実させ、本校の特色あふれる教育活動を正確に広報するために、様々な情報をタイムリーにわかりやすく掲載する体制を構築する。また外部の方への広報だけでなく生徒、保護者への情報伝達の手段としての活用も進める。</p> <p>③・より多くの生徒が、専門学科で学んだ成果の地域への還元の取組に参加するよう、様々な機会を捉えて意識啓発を行う。 ・中学生対象の公開授業の設定については、中学側の意見も集約していく。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> HP やメールによる情報提供が適切に行われている。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ、芸術、国際、理数と、他校にない専門性の高い教育を行っている生徒の活躍は市民の自慢です。さらに生徒の活躍をもっと広く市民に知って貰いたいと願っている。 弥栄トリニティによる連携は、地域にある他の施設とともに教育効果をもたらしている。 JAXA もイベントがあるので是非活用機会を増やしてほしい。 卒業していく生徒たちが弥栄高校で受けた教育の力を後輩や保護者の前で証明してくれることにより、魅力ある学校になってきた。よい循環に入ってきている。 	<p>(学校評価)</p> <p>①「弥栄トリニティ」の取組を継続し、弥栄小中高の連携を行った。また、特別支援学校や公民館を通じた連携も継続している。</p> <p>②HP 記事の更新方法が各職員に徹底され、本校の教育活動を幅広く広報することができた。</p> <p>③専門学科で学んだ成果を地域に還元する取り組みに多くの生徒が参加しているが、まだ生徒会の本部や特定の部活動に偏っている面はある。</p> <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の多忙化の中で、外部との連携の内容を精査し。持続可能な取組みとして継続していく。 ホームページをさらに充実させ、本校の特色あふれる教育活動を正確に広報するために、様々な情報をタイムリーにわかりやすく掲載する体制を構築する。 中学生のニーズに応える公開授業や学校説明会の開催方法、内容を引き続き検討する。
<p>6</p> <p>教職員の資質と能力を高めるとともに、安心して信頼される学校の管理体制を構築し、維持する。</p>	<p>①安全教育を進め、防災訓練を徹底する。生徒用の防災マニュアルを整備するとともに、災害時の備蓄を確保する。</p> <p>②キャリア研修、人権研修や事故防止研修など職員研修を推進する。</p>	<p>①防災マニュアルや備蓄の整備は進んだか。効果的な防災訓練が実施できたか。安全教育を推進できたか。</p> <p>②効果的な研修会を実施できたか。</p>	<p>①防災マニュアルは、県提出用をさらに実用的にした。新たに教員対象の防災訓練を実施した。</p> <p>②進路指導に関わる各種教員研修会を実施した。また7月に「インターネット上におけるいじめ等の問題」、9月に「授業、部活動中における体罰」に関して、外部から講師を招いて教員対象の人権研修と事故防止研修を実施した。共に教育現場の視点でなされた有益な講演内容や討論になり、今後の指導に大いに参考になる内容であった。</p>	<p>①実用的な防災マニュアルを作成し、職員の防災に対する日ごろの意識を高められるよう、研修を継続的に行う。</p> <p>②・4学科5専攻の個性あふれる生徒の才能を十分引き出すことができるよう、職員も研修を重ね教科、生活、進路指導のいずれにおいてももしっかりした指導ができるよう職員間の意見交換を盛んにし研修も行い、活気ある職場にしていく。</p>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災備蓄の整備をさらに進めてもらいたい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 弥栄高等学校は入学してきた生徒たちに先生たちが愛情を持って日々教育してくださっている。 学校コミュニティの中に漂う空気全体が教育力を発揮するようになってきた。 	<p>(学校評価)</p> <p>①防災マニュアルを、さらに実用的にした教員マニュアルを作成し、新たに教員対象の防災訓練を実施した。</p> <p>②進路指導に関わる各種教員研修会を実施するなど実効性のある職員研修を行うことができた。</p> <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、教職員が抱えている課題を集約して、できるだけ多くの教職員にとって実り多い研修会を行う。 事故防止研修において、地域の人材の活用も引き続き行っていきたい。 成績処理の事故が発生しないよう、チェック体制を確立する。